

第 11 回安曇野市地域包括ケア推進会議 会議概要

- 1 会議名 地域包括ケア推進会議
- 2 日時 令和6年3月8日 午後1時30分から 午後3時05分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎4階大会議室
- 4 委員 中島美智子委員、高橋喜博委員、横林和彦委員、村山幸一委員、山本雅枝氏（千野力委員代理）、中村真梨菜委員、吉沢忠史委員、小林真弓委員、千國充弘委員、松嶋隆徳委員、中村守良委員、二木弘委員、池田陽子委員、八田桂子委員、矢口護氏（中田邦博委員代理）、三好賢一委員、宮澤豊次委員、平林利充委員（欠席委員）高津隆行委員、小木曾進委員、寺島美恵委員
- 5 事務局 甕福祉部長、高橋高齢者介護課長、渡邊健康推進課長、新保国保年金課長、藤原国保年金担当係長、瀧介護保険担当係長、塩原介護保険担当係長、深井課長補佐兼介護予防担当係長、蓮井課長補佐兼長寿福祉係長、岩原介護予防担当係長、成田保健師、竹中保健師、中澤保健師、松尾主事
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 令和6年3月9日

協 議 事 項 等

I 会議の概要

協議事項

(1) 地域包括ケア推進の取組について

① 地域包括ケアシステムとは（資料1、2）

② 安曇野市の地域包括ケアシステムの取組について（資料3）

ア：介護予防事業（安曇野市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業）

イ：介護予防事業（一般介護予防事業）

ウ：生活支援（生活支援体制整備事業・安曇野市地域見守り連携協定活動報告）

エ：在宅医療介護連携推進事業

オ：認知症施策（認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援事業）

カ：地域ケア会議

（個別ケア会議・自立支援型個別会議・地域包括支援センター連携推進会議）

(2) 地域課題の意見交換「身寄りのない高齢者が安心して暮らせる地域づくり」（資料4）

(3) その他

## II 審議概要

### 協議事項

#### (1) 地域包括ケア推進の取組について

事務局説明【質疑応答】なし

#### (2) 地域課題の意見交換

「身寄りのない高齢者が安心して暮らせる地域づくり」

事務局説明【質疑応答】なし

### ○会長

- ・今回意見を伺いたいのは、今回の個別の事例に対する意見ではなく、この他にいる別の身寄りのない高齢者が、安心して暮らせる地域づくりはどうしたらよいかということである。

### ○事務局より補足

- ・地域ケア会議、地域包括支援センター連携推進会議でまとまったものを、この地域包括ケア推進会議で検討いただくということになっている。ここでは市全体で考えるべき課題解決や必要とする事業に繋がりたいと思っている。
- ・身寄りがない高齢者が自分らしい暮らしを続けるために必要なことを検討する上で、第9期の市の取り組みとしては、地域包括支援センターの機能強化と体制整備、在宅医療介護連携の推進が挙げられる。
- ・優先的に取り組むべきことや、より具体的に実施すべきこと、今の取り組みでも構わないので考えを皆様委員からご意見としていただきたい。

### 【各委員より意見】

### ○委員

- ・人生100年時代であり高齢者が増加している。特に、コロナ禍以降、孤立・孤独になっている高齢者・要支援者がいる。
- ・民生児童委員として高齢者を重点的に安心安全のために見守りを行っている。
- ・一番の問題は、独居の場合孤立・話し相手のない人がいる。地域でのつながりが希薄化している状況。
- ・民生児童委員の活動としても、コロナ前の平常時の活動に戻していく必要がある。
- ・身寄りがない、親族があっても関係が切れていることが多い。隣近所との付き合いが適切に行われることが必要なのではないか。

### ○委員

- ・歯科医師としてできることは、その人がおいしく食べることへの手伝いとなる。そういう人に対し受診、治療ができるようにすることを考える。例えば、交通手段がない方にはあずみん、会計の時には認知症があれば成年後見制度等、そういった情報が分かるように、フェースシートの整理をお願いしたい。

○委員

- ・地域見守り活動でも書かせていただいたが、大きな病院ではソーシャルワーカーがいて行政につなぐこともできると思うが、小さなところでは十分に対応できず、相談を受けた際に市の窓口がどこかがわかりにくい。具体例をあげて、窓口の周知を図っていただきたいので検討お願いしたい。

○委員

- ・ACPについて、松本市が先進的に行っている。
- ・わかりやすい日本語で、見やすく大きな字で、共通のものを作るのがよい。
- ・市への要望として、我々もそうだが、個人情報に敏感になりすぎているところがある。緊急時、必要時は、情報共有が必要。
- ・避難訓練など避難場所が公民館になっていることが多いと思うが、実際どこに避難すればいいかわかりにくいので、わかりやすい周知をしてほしい。

○委員

- ・地域ケア会議に参加した。個人情報の保護で話が進まない事例があった。ケアマネが金銭管理をしている事例があり、ケアマネの負担が大きくなっている。
- ・行政で積極的にかかわってくれたらスムーズに進むと感じる。

○委員

- ・独居台帳に連絡先の記載ないことは、この把握をどうしていくかが支援体制の始まりと思う。協力周知を地域と連携できるところにしていく。
- ・相談窓口がしっかりしていない。夜間の問題はあるが、タイムリーに相談するための体制を検討してはどうか。身寄りのない人について入院してからの発見より、それ以前からの把握が必要と思う。

○委員

- ・今後は、認知機能があって自分で判断できる人をどう見つけていくかが課題。地域の人や民生委員からの情報が必要。掘り出した情報を行政がどのように取り組んでいくかを考えなければならない。また、緊急時の窓口は行政のどこが担うのか。
- ・自分が倒れたらどうする？と心配する高齢者は多い。いざというときの窓口が分かる手順書のようなものを作っていただいたら、安心される人もいると思う。

○委員

- ・介護度が上がる前にいかにして早く把握できるかが一番の課題。職員が出向き、情報を得る中で把握ができればと思っている。
- ・社協では各支所に相談窓口があるので市と共有できればよいと考える。
- ・まいさば、金銭管理が難しい人のサポートを行っており、今後は人員体制の拡大を予定しているので活用してほしい。

○委員

- ・身寄りのない高齢者についてはケアマネ皆直面している問題である。
- ・初対面でこの人の生活をどうするかを考えていくことは本当に難しい部分。本人に聞きながら手探りで情報を集めるが場面ある。医師や行政等多くの関係者に聞きながら、本人がどうしたらいいか話せればよいと考える。
- ・実際の事例として、独居の人の入院先の同意を求められたことがある。同意者を探すことは大変だった。どのように探していくのか考えていくことも大切。

○委員

- ・消防として全部施錠された状態で、中で倒れている場合が一番困る。このような場合、警察を呼んで、破壊して中に入る。緊急的に連絡先を確認できる市に窓口があれば活動しやすい。
- ・保険証に緊急連絡先を入れるなどすれば、緊急時に身元がわかるのではないか。
- ・災害時の地域の自主防災活動では、要支援者の名簿作成をし、地域の防災活動の中で助け合う自助共助の取り組みは進んでいる。

○委員

- ・商工会員で成り立っているので、今回意見することは難しく、市や民生委員などをお願いしていくしかない。連携を密に図っていただきたい。

○委員

- ・郵便局では配達途中等の見守りを主にしている。
- ・市の見守りシールが普及することで、いざというときのための体制ができる。普及をすすめてほしい。

○委員代理

- ・警察として24時間体制でやっている中で、夜間、警察でも情報がない人の情報を把握する手段があると助かる。
- ・独居台帳がどのようなものかわからないが、緊急連絡先ない人がどれだけいるかの把握、検討が必要。警察とも情報共有してもらえると役立つと思う。

○委員

- ・NPO 活動の中に見守り活動がある。活動に参加している人から、地域の心配な人の話が時々出てくる。区でもそういったことは把握していたりする。
- ・ケアマネとして介護状態になって、初めてその人のお宅に行くことがあるが、地域の人は、本人から発信がないから関われない。立ち入れない。
- ・市に独居台帳があることを知らなかった。ケアマネ自身が自分のネットワークを駆使して探しているが、できるのであれば、市からワンストップで調査していただいたもの、更新可能な、最新の情報に繋がれるようなシステムがあるとよい。

○委員

- ・地域でやりたいことがあったら自分たちでやろう、小さな活動を自分でやろう、積み重ねることが大事。元気なうちから小さな集団を地域にたくさん作る。
- ・サービスガイドブックは実際活用されているか疑問はある。
- ・あんしん広場で地域の声を聴けた。
- ・これからは社協や NPO など多くの活動の人たちと連携、お互いの役割を確認し合いながら、地域の人たちが生きていく場所が必要。

○委員

- ・消防・警察と同様の考えである。
- ・行方不明者については、昼間は防災無線を流し、見つからなければ消防団も昼間の活動に加わる。活動の中で情報の少なさを感じる。地域内で消防団員だとわかれば情報ももらえる。防災無線は意外と聞いている（FMあづみの含む）これにより発見に至ることがある。
- ・神城地震（白馬村）死者なしだったが、地域の情報で助かった命がある。小さい地域単位でいいのでそういう情報が欲しい。

○委員

- ・シニアクラブで仲間づくり活動を行っている。身寄りのない人、知っている限りはいないが、一時的な一人暮らし（日中独居、家族不在時など）そういった人に仲間に入って、仲良くやっていきたい。
- ・身寄りのない人が区や常会から抜け、話す機会がなくなると、心を閉ざしてしまう。
- ・シニアクラブの運営はどうしたらいいか苦慮している。県の理事をしており、他団体の状況を聞いてみたがどこのシニアクラブでも仲間作りに苦労している。仲間を増やして元気なシニアクラブにしたいと思っているが難しい実情がある。

【会長より総括】

- ・介護の有無関係なく、1人1人の情報を把握する必要があるが、情報収集には福祉部のみでは難しい。他の部署の連携も図られたい。これらを出発点として警察等の各関係者ができることを考える。エネルギーを使うが、作っていかないと何も進まない。
- ・24時間情報を上げられないのであれば、個人情報や QR コードに集約し、その家の冷蔵庫にはっておくなどをすることで24時間は把握できる方法はないかと思った。多くの意見をいただいたので意見交換や会議に役立てて作っていただきたい。

### (3) その他

#### ○事務局からの連絡事項

- ・会議委員の交代について、6月以降に所属する団体への推薦書等を送らせていただく。後任者の選出と会議の内容の引継ぎをお願いしたい。

#### ○事務局

- ・一人暮らし、身寄りのない方の対応に、警察や消防いろんな人から昼夜問わず連絡をいただき対応している。本日の意見を新しい課題としてとらえ、次の段階に続けていく。

### 4 閉会

- ・一人暮らし、老々世帯の他、親戚がいても身寄りがない人もいる。それぞれの立場での対応について聞かせていただいた。行政への依頼、要望、提言をいただいた。高齢者が増加してくる中、こういったことに対応する機関が大切だと思う。